関西とともに―［阪神ハイウェイ］

HANSHIN HIGHWAY

2024 AUTUMN vol. 235

～阪神高速のある風景～
第3回 阪神高速フォトコンテスト優秀賞作品

CONTENTS

エッセイ●季節の言葉
おつきさま、えらいな　中井精一

1 この出入口のこと知ってる？●阪神高速の出入口再発見！
おうぎまち［扇町］
12号守口線「扇町出入口」
かつて町はずれだった扇町が都市に発展
監獄が公園に、堀川が都市高速に

4 関西の名工
石村隆一さん（三味線職人）
限界ぎりぎりまで皮を引っ張る
めざすのは、最高の音色の三味線

6 教えてセンセイ
武藤康弘さん（武庫川女子大学教授）
縄文時代は自然に寄り添い
精神的にも豊かな、共助の時代でした

8 阪神高速の取り組み
大阪港の赤いシンボル
「港大橋」は、
開通50周年を迎えました

10 ちょっと行ってみたい関西うまいもん
川西のいちじく　●川西市

12 Hanshin Highway TIMES
お客さま満足アッププランは2024から2025へ/国際人権デー
阪神高速の料金所がETC専用に順次かわります
「喜連瓜破 橋梁架替え工事」の動画公開中

表紙イラスト〈天神橋筋商店街と阪神高速守口線が交差する夫婦橋交差点〉
ヤマサキタツヤ：大阪生まれ大阪育ちのイラストレーター。誌面やWebなど各媒体で活動。「来た見た食うた 大台南見聞録」（書肆侃侃房）など主に台湾に関する書籍を出版。

エッセイ 秋 季節の言葉

おつきさま、えらいな

秋風とともに、空気が澄み、夏にはなかった落ち着いた雰囲気が感じられるようになりました。傍らになく虫の音、そして美しく輝く月を見るとき、多くの日本人は秋の素晴らしさを感じずにはいられません。

おつきさま、えらいな、おひさまのきょうだいで、みかづき
になったり、まん
まるになったり、
はる、なつ、あき、ふゆ、にっぽんじゅうをてらす。

子どもの頃、月を見ながら石原和三郎の唱歌「おつきさま」を歌った方もいらっしゃるのではないでしょうか。電気が津々浦々に普及する以前、日本の夜は暗く、明るく輝く月をなによりも美しく、とりわけ「秋の夜の月」は情趣深いものでした。

ところで、ちょっとこの「おつきさま」をくちずさんでいただけませんか。そして、はる、なつ、あき、ふゆの発音に注意してみてください。この歌では、はる（高低）、なつ（高低）、あき（高低）、ふゆ（高低）とアクセントは全て同じになっています。

日本語のアクセントは関西と関東では違っていて、関西では、はるう（低高下・はが低く、るで高くなり、うで下がる）、なつ（高低）、あきい（低高下）、ふゆ（高低）となります。一方関東では、はる（高低）、なつ（低高）、あき（高低）、ふゆ（低高）となるはずです。つまり関西では春秋はともに（低高下）、夏冬は（高低）、関東では春秋が（高低）、夏冬が（低高）で、「おつきさま」のようには、はる、なつ、あき、ふゆの全てが（高低）となることはないはずです。歌詞のアクセントが実際のアクセントと違っていても違和感がない人もいます。またそもそも歌詞のアクセントは実際とは違うものだと考える人もいます。しかしながら三木露風の詞を山田耕筰が作曲した「あかとんぼ」のように、日常で用いられていたアクセントに忠実にメロディーが付けられている曲も少なくありません。

美しい月を見るたびに、アクセントが気になるのは私だけなのでしょうか。

中井精一　なかいせいいち（同志社女子大学日本語日本文学科教授）
博士（文学）（大阪大学）専門は日本語学・方言学　主な著書に『地図で読み解く関西のことば』（昭和堂）『関西弁事典』（ひつじ書房）、『大阪のことば地図』（和泉書院）などがある。

この出入口のこと知ってる？

阪神高速の出入口再発見！

おうぎまち「扇町」

12号守口線「扇町出入口」

浪花百景「堀川備前陣家」（大阪市立図書館デジタルアーカイブ）
大阪を代表する100の名所を描いた人気浮世絵シリーズ。幕末の大阪の町の風景や庶民の姿が生き生きと描かれている。流れているのは天満堀川。奥に見えているのは備前岡山藩が設置した陣屋で1861年に建設された。天満堀川の土手にはこのように桜の木が植えられ、多くの人の目を楽しませた。

浪華の賑ひ「堀川」（大阪市立図書館デジタルアーカイブ）
『浪華の賑ひ』とは江戸時代の人気読本作家、暁鐘成（あかつき・かねなる）が著した大阪の名所案内記。「堀川」には行楽地となった当時の様子が絵と文章で記されている。それによると、「この川筋は行き止まりに塵芥（ちりあくた＝ごみ）が山のように積み上がり、とても見苦しい場所だったが、近年新たに東方の淀川筋まで開削され、水の流れが通り、清らかになった。堤には桜の木が植えられ、花の咲く頃には老若男女が集い、賑わっている。初めの頃を知る者はそこにいないのだろうと疑うばかりの景色のよい土地となった」とある。

かつて町はずれだった扇町が都市に発展 監獄が公園に、堀川が都市高速に

土地改良と舟運を目的に、多くの堀川がめぐらされた大阪。そのひとつ、旧天満堀川は「扇町」に由来のある北摂行き重要ルートでした。現在は埋め立てられ、阪神高速12号守口線がその役割を担っています。扇町に伝わる歴史について大阪歴史博物館の大澤研一館長に聞きました。

扇町のシンボルとなった清流と桜

近世以降、縦横にくまなく舟で行き来することのできた大阪は、水都として発展してきました。15本あった堀川のうちのひとつ、天満堀川は1598（慶長3）年に堂島川から北方向に出っ張るように開削され、当時は扇町公園あたりで行き止まっていました。天満堀川に架かっていた橋が扇の形に見えることから扇橋と名づけられ、のちに扇町という地名が誕生したといわれます。しかし、地名としてはそんなに古いものではありません。江戸時代、このあたりは夫婦（みょうと）町と呼ばれ、こちらの名前に歴史的ないわれがあるようです。話はこうです。現在の天神橋筋商店街は「天神橋筋」という街道に沿って店が建ち並んだ商店街で、天神橋筋は奈良時代にさかのぼるとみられる古い道です。南北に行き来できる主要道で、大阪の歴史において大切な道でもありました。そのような道を挟んで両側に存在したのが夫婦池です。夫婦町はこの夫婦池から由来したと思

われますが、夫婦という名称に物語があります。

『池の近くにある若夫婦が住んでいたが、貧しい暮らしのため、夫は他国へ出稼ぎに行った。3年経ったら帰ってくるという約束だったが、3年過ぎても帰ってこず、どこかで行き倒れてしまったにちがいないと妻は悲観し、池に身投げした。しかし、そのすぐ後に夫が戻ってきた。悲嘆にくれた夫も池に身を投げた』という逸話から夫婦池という名前がついたといわれています。また、2つの池が一対のように見えるため、夫婦に例えたという説もあり、どちらが本当なのかわかりませんが、おそらく連動した話だろうと思います。大阪市内は上町台地を除き、周辺の土地は低いので、窪地などに水がたまり、このような池があちらこちらにできたのでしょう。天満堀川のあたりも低地だったはずで、低い場所を狙って掘ったのだろうと推測されます。

天神橋筋は人の往来の多い道でしたが、江戸時代の古地図を見てもわかるように、扇町界隈は大阪の町はずれに位置し、農耕地の痕跡があります。夫婦町という名前がついているので、それなりの家並もあったようですが、おそらく田畑の風景が広がっていたのでしょう。

さて、天満堀川は行き止まりだったため、その付近は水が澱み、ごみなども溜まる不衛生な状態でした。1838(天保9)年、天満堀川の延伸工事が行われ、夫婦池を通過するように北東に向かい、大川(淀川)とつながりました。その前年、大塩平八郎の乱で天満界隈が荒廃したため、町の復興と窮民救済を目的に延長開削が行われたのです。これによって新たな舟運ルートができ、水質も改善されていきました。

幕末に風景浮世絵として出版された『浪花百景』には、天満堀川と大川が合流したあとの美しい景色が描かれています。川の清流と桜並木、その奥に備前藩(現在の岡山)の陣屋があり、この辺りが行楽地になっていたことがうかがえます。大阪の中心部は自然に親しむような緑豊かな場所がほとんどなく、郊外に出るとこのような行楽地ができるのです。

江戸と現代の風景が交差する扇町

扇町に監獄ができたのは1882(明治15)年で、備前藩の陣屋があったところに堀川監獄という、巨大な刑務所が造られました。当時はまだ辺鄙な場所で、周辺には桑畑が広がっていたようです。その後、天満駅が開業し、市街化が急速に進んだことから、街中に監獄があるのは好ましくないという理由で、1920(大正9)年、堺市に刑務所を移転。1923年、広大な跡地に扇町公園が造られました。

1950(昭和25)年、日米国際水泳選手権大会の開催に向け、「大阪プール」が扇町公園内に建設されました。収容数2万2千人という東洋一の規模を誇る施設を約5か月で完成させたのは偉業です。くだんの大会においては「フジヤマノトビウオ」と呼ばれた古橋選手が世界記録を打ち出すなど、日本中に感動と勇気を与えました。力道山VSルー・テーズのプロレスイベントやマイルス・デービスのコンサートなども開催され、大勢の観客で賑わった大阪プールでしたが、老朽化により1997(平成9)年、港区の八幡屋(やはたや)公園に移転。扇町公園全体は1996(平成8)年から大幅なリニューアルが行われ、現在、大型遊具が整備された都市公園として市民に親しまれています。

大阪の繁華街・梅田は湿地だった場所を埋め立てた土地で、鉄道の駅ができるまでは郊外でした。広い土地があったため駅が造りやすく、それによって人々の動線が変化し、郊外が街の中心になっていく逆転現象が起こっています。結果的に扇町もターミナル駅に近い好立地となり、都市化が進み、マンションなども多く建っています。公園の機能が備わり、庶民的な天神橋筋商店街で買い物が楽しめる便利なまちになりました。

その一方で、扇町に近い与力町や同心町には、道をクランクさせた「あてまげ」という史跡が一部残っています。道を見通せない防御的な役割と特別なエリアと認識させるために施されたものですが、今でも江戸時代を追いかけていけるのは珍しいことです。扇町界隈の歴史と現代的な風景を、ぜひ肌で感じてみてください。

天神橋筋商店街のほぼ中央、天神橋4丁目付近の阪神高速の高架下には、地名の由来となった史跡と案内板がある。この地蔵尊は高速道路下と周辺の美化工事に伴い、しばらく寺で保管された後、お堂を再建。2000(平成12)年、かつて橋が架かっていた歩道の両側に欄干や橋柱灯を新調し、「平成の夫婦橋」が再現された。

地下鉄扇町駅や阪神高速扇町出入口からすぐの扇町公園。せせらぎや季節の花々、芝生広場などが整備され、憩いの場として広く市民に親しまれている。トンネル状滑り台やマウンテンスライダーなど大型遊具が子どもたちに大人気。扇町プールやロッククライミングの練習場もある。

「私が案内するまち歩きガイドでは、天満橋・八軒家浜をスタートし、天満・扇町をめぐるコースがあります。夫婦橋も案内しますが、高架下で目立たないせいか、あまり知られていないようです。このような埋もれた歴史をひもとくまち歩き、楽しいですよ」(大澤研一さん)

★キッズプラザ大阪

扇町のランドマークともいえる複合施設「カンテレ扇町スクエア」の建物内にある、日本初の本格的な"こどものための博物館"。遊びや体験を通じて学び、創造性を培い、可能性や個性を伸ばすことを基本理念に1997年7月に開館。「どんなもん階」「つくろう階」「あそぼう階」「やってみる階」など、階ごとに多彩な展示、ワークショップを展開。リピーターの絶えない人気施設である。
午前9時半～午後5時、第2、3月曜休館(祝日の場合は翌日)・8月は第4月曜日、大人1,400円、小中学生800円、3歳以上500円。TEL06-6311-6601

★大阪くらしの今昔館

「住まいと暮らし、まちづくりの歴史」がテーマの博物館。展示は時代別に構成され、江戸時代の大阪の町家を再現。まるで200年前にタイムトリップしたような気分になる。明治・大正・昭和の大阪は精巧な模型やパノラマのマップなどで紹介。最近では外国人の来場が多く、人気の観光スポットになっている。
午前10時～午後5時、火曜休館(祝日の場合、開館)、大人600円、高大生300円。TEL 06-6242-1170

★綱敷(つなしき)天神社

光源氏のモデルともいわれる源融(みなもとのとおる)が、父の嵯峨天皇を偲び、太融寺の伽藍建立と同時期の843年に創建したといわれる。祭神は嵯峨天皇、菅原道真。社名の由来は菅原道真が無実の罪で大宰府へと左遷の際にこの地に着き、満開の紅梅を愛でるため、船の艫綱(ともづな)を手繰り寄せ、円座にして敷いたことから、綱敷の名がついたとされる。現在の社殿は1956年に竣工。北野天神として親しまれている。

★太融寺

高野山真言宗の寺院で、821年空海により開基とされる。源融が七堂伽藍を建立したことから寺名にしたという。最盛期の頃は扇町公園あたりまで寺の庭だった。大坂の陣のとき、寺地を削られたが、その後、本堂や南大門などが復興し、浪華の名刹として栄えた。本尊として祀られている木造千手観音菩薩立像は平安時代の貴重な古仏。大阪市指定文化財となっている。

★成正寺(じょうしょうじ)

大塩平八郎の菩提寺として知られている。大塩平八郎・格之助父子の墓があり、墓参する人が絶えない。大塩平八郎に関する研鑽会「大塩事件研究会」が成正寺を中心に活動。追悼や顕彰にとどまらず、事実にもとづいた研究調査を目的に、隔月の講演会やフィールドワークが行われている。

★龍王大神社

もともとこのあたりは太融寺の境内で、その後、寺域が削られ、祠が外に残った状態になった。現在も太融寺が管理している。ご神木であるイチョウの大木を道路拡張のために伐採しようとしたが、工事関係者に災いが生じたという理由で伐採が中止された。龍王大神は男性の縁結び、太融寺の白龍大神は女性の縁結びの神として信仰されている。

★扇町ミュージアムキューブ

かつて若者文化の発信基地だった「扇町ミュージアムスクエア」のように、賑わいをもたらす施設として昨年秋にオープン。50、100、250席の3つの劇場空間をはじめ、映画・音楽・舞踊・伝統芸能・美術・体験型講座など、多様な芸術が集まる7つの多目的スペース、計10個のCUBEからなる文化創造施設である。アーティストと観客が交わる場「コミュニティ・サロン／マチソワ」なども併設。誰にでも開かれた次世代のアート発信拠点として目が離せない。

★堀川戎神社

商売繫盛の神・蛭子大神(えびすのおおかみ)を主神に祀られたお宮。「堀川のえべっさん」として親しまれている。毎年1月9、10、11日の十日戎は参拝者が訪れ、境内は福娘による「商売繁盛、家内安全、お神楽～」のかけ声やお囃子で大賑わい。福笹を手に天神橋筋商店街を歩く人たちの姿が年始の風物詩となっている。